

ぎょううあへん

卵うり

へあ。まいど、たまごやです。

早いもので卵を売り出して、早いほう、毎週一回山岸会館法で作られた卵を京都のごく普通の家々へ、一軒一軒うりに回る。うば車に10kg入りの卵のはこを2個、ごんとつんと押しこ歩く。

一番最初、8人位で、ど、とくり出して一軒一軒、配合飼料を使わない、産地道達の新鮮な自然鶏卵です。レ、という、こ歩いて回った。

その時は、ただの30kg、2箱り卵だ、だが、今はそれが50kg、5箱にふえた。卵のかずで900個ぐらいた。買う人が皆、なじみ客になつたので、毎週決、た家へ2、3人で、うば車を押して行く。そのなじみのおばやんの紹介で、となり近所へとじわじわ入っていく。まあ、というのが卵売りの実態だ。

へい、あ、卵屋のにちゃんや。

卵を買う方の反応だが

(1) 学生さんがやたはる。毎週いつこくさうやるわ。

(2) いちいち市場へ行くのもめんどうやし、毎週も、てきてくれはるから、便利ええわ。

(3) なるほど、黄色の色がちがつ、おいしい卵や。

(4) おいしい卵やし、となりのおくさんにも、いってみたら。

ま、ざ、とこんなとこ。(1)、(2)は論外として、(3)が大方の反応のようだ。しかし、おいしい卵やなあから、もう一歩買手の意識につ、こんでその意識をくすぐ、みたい。例えば、食品公害のこと、農業のこと、消費者運動のことなど。

へう、おおきに、又、来週。

では、売手の我々の方はというと、何となく毎週一回、いい運動になるし、おばはんと世間話

じ・あな^{5号}はこうび、い、い
〜き〜す^{7.2}はこうぶすう、い、い
へきうと^{19.2}はこうへんいん、い、い

をしなから、又うば車を押しながら、哲寺の道を銀閣寺のうえ歩く。何となく牧歌的だええ。それに、いい卵を扱、ているから、気持がいい。……こなむで、こ、ちのちもたよりない。おまににええ卵やなあ、で終っている。だから、量的には、まだまだ定る卵の数をふやせるし、卵以外の自然食品も扱、て、規模をひろげることにも可能だけれど、も一つピンとこないでいる。

へえ、卵を知るには鶏から。

そこで、今後、規模を拡げるにしても、おれたちが、卵自身をも、と知らなくては、ええ卵やなあ、から進め、こない。ということなので、近々、養鶏場に行、て、にわとりさんに、い、い、教えてもらつつもりだ。それから、卵、て何や、農業、て何や、商売、て何や、消費者運動て何や。とわが、こいきた。

文献センターへ

京都から



去年の後半から、今までに数度にわた、京都から一緒に行った仲間と、たいしたことはできなかつたけど、小さいことと子。コチヨコと、や、てきた。おれたちは、金があまり使えないので、車で、数人乗りこんで、行くことが多かった。それで、本や文具やゴミ箱も、少々運んだ。その時、個人の蔵書や、朝日ジャーナルや、外国からの文献を譲、てくれた人に新めて感謝する。文献センターの中に、でんと腰をすえて仕事をする新聞を発行順にひもでとじ、何百種もある、ミニコミや、レジメを部屋中に所狭しとひるげ、マイルにとじたりするのは、案外、面白い、たしかに時間はかかるけど。

本命の本だが、カード作りに、分類、ラベル貼りに、まだ相当手がいる。整本を必要とする被損した本も相当あるが、これも一見して大変な手がかりそうで、手をつける気も起きない。手紙や書類の整理は、継続してやらなければならぬので、センターに泊り込んでる者たちがやって、いるが、仕事や、私的な用で、時間がかり、本来のセンター作りは、なかなか進まない。ヤンギ塗りや、大工仕事は天気の良い日には、結構楽しみながらでる。

次の京都発の

文献センター行きのキャラバンは

6月4日(日) ～ 6月7日(水)まで

時刻は不詳なので、参加したい人は

TELをください。 ハグマへ

文献センターは、反権力、反国家の文献と

反権力、反国家の君を必要としている。

ヤマギシ会

春日山

の特講を受けマ

一週間も、ゆきも、あざびもせず、十字架の羊でザンゲの告白をするような気持ちで、頭の中でチラチラするやつを、つかまえては放り出すという、実にサディストでかつマゾキストな作業にとりかかった。もっと深く考えて、もっと深く考えて、先入観をのけて、こ下さい。あなたはどう考えるかだけを言っ、て下さい。と係りの人にけしかけるながら。ここではヤマギシ会のことを話すのではなく、零位に立つ方法とか、物の本質とかを知るとか、い、て、なにかを考える場であり、知識をえる場ではないらしい。一言で、いやと言でも口ではいい言わせないのが特講の特徴である。あまり判、てもないにくせに、なあかつ、ずうずうしく、私に言わせてもらうなら。恐ろしい心境を理屈でなく、ムード的に判、るといふことが、相手と論敵で

なく、親が親不幸なドラ息子(ドラ娘)を見るような、仏のまうな大きな心で話を聞くことを悟るとか、が、この特講の目的らしい。こんな抽象的なことをい、ても、なにも判、らないと思、うので、私自身としては、終始、聞く相手が、に、こりとして聞いてくれること、が、その特講の目的らしいものに通ずるか、なと思、い、一時そうし、ようとしたが、恐、りケンサンの中で、ぐだぐだ、い、うに話が進ま、ない、うで、腹が立、て、腹が立、てし、ようがなかつた。特講の良し悪しは別にして、ヤマギシ会に、私は、多くの悩める仲間が、夢にえがくところの、自由で、平等なコミ、ューニ、の、種々の自主管理工場の、自治体の、横の人間性のある結合の、一つの環として、大いに期待をかけた。農村の、素朴な、恐、ろくない人達の、(狭い意味では)非政治的な、特徴(傾向)を、もち続ける、一種の自由意志による、不特定グループとしての、ヤマギシ会に、私の身勝手な、さまたけ可能性の期待を、いだきつ、つ。